

渋谷川・古川河川整備計画(変更原案)

説明資料

平成30年9月14日(金)

1. 流域及び河川の概要

渋谷川・古川の概要

土地利用状況の変遷

歴史と由来

2. 河川整備の現状と課題

洪水による災害発生状況

河川の整備状況

適正な利用及び流水の正常な機能の維持

河川環境の整備と保全に関する事項

3. 河川整備計画の目標及び整備の実施に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減

変更

4. 河川整備の実施に関する事項

河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される

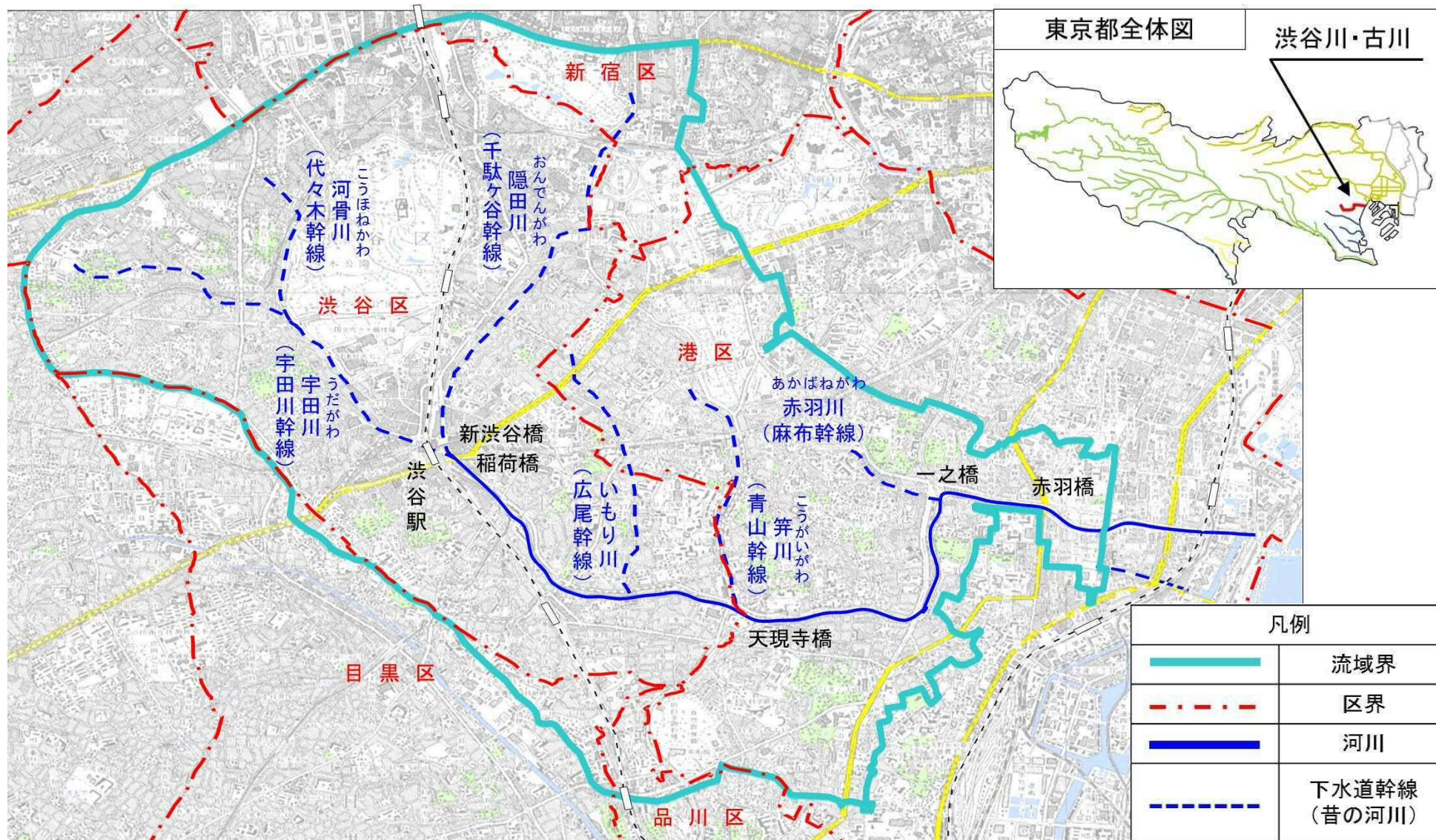
河川管理施設の機能の概要

変更

5. パブリックコメントの結果

1. 流域及び河川の概要 — 渋谷川・古川の概要 —

- 流域面積 22.8km² (渋谷川 14.0km² 古川 8.8km²)
- 河川延長 6.8km (渋谷川 2.4km 古川 4.4km)
- 流域内人口：約32万人 (平成27年度)
- 流域区：渋谷区、港区、新宿区、目黒区、品川区



1. 流域及び河川の概要 — 渋谷川・古川の概要 —



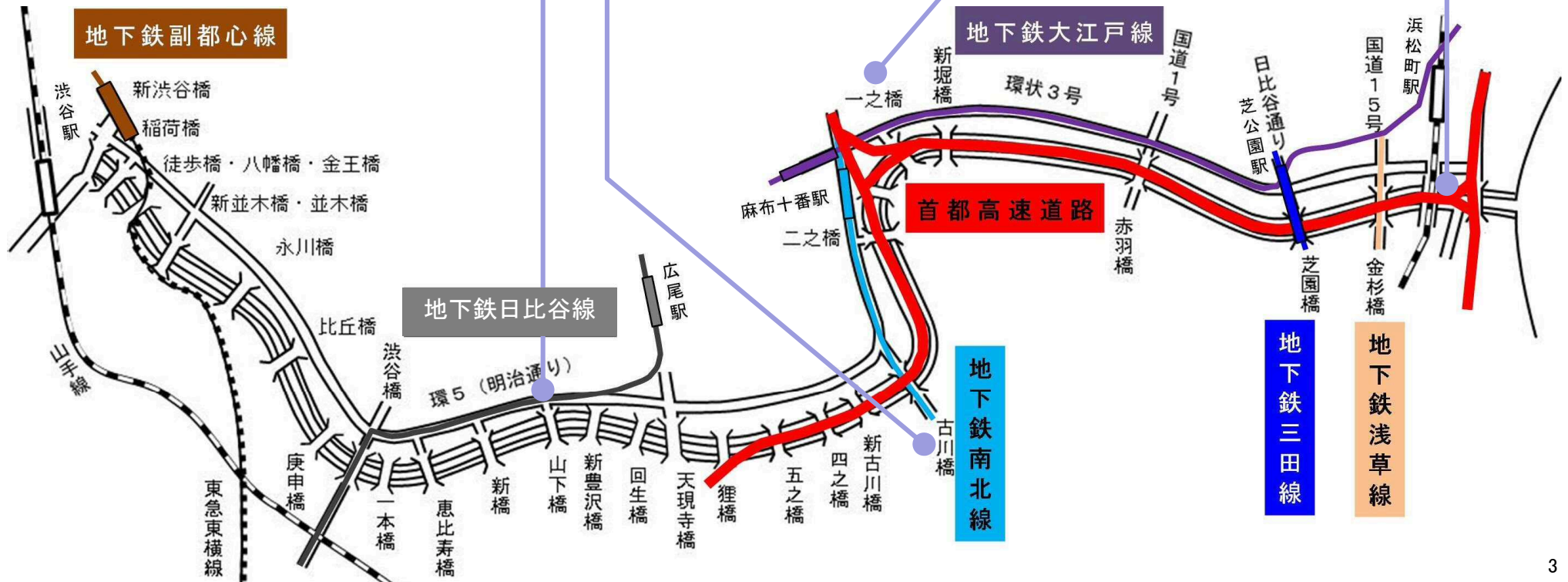
渋谷川(山下橋付近)



古川(古川橋～一之橋付近)

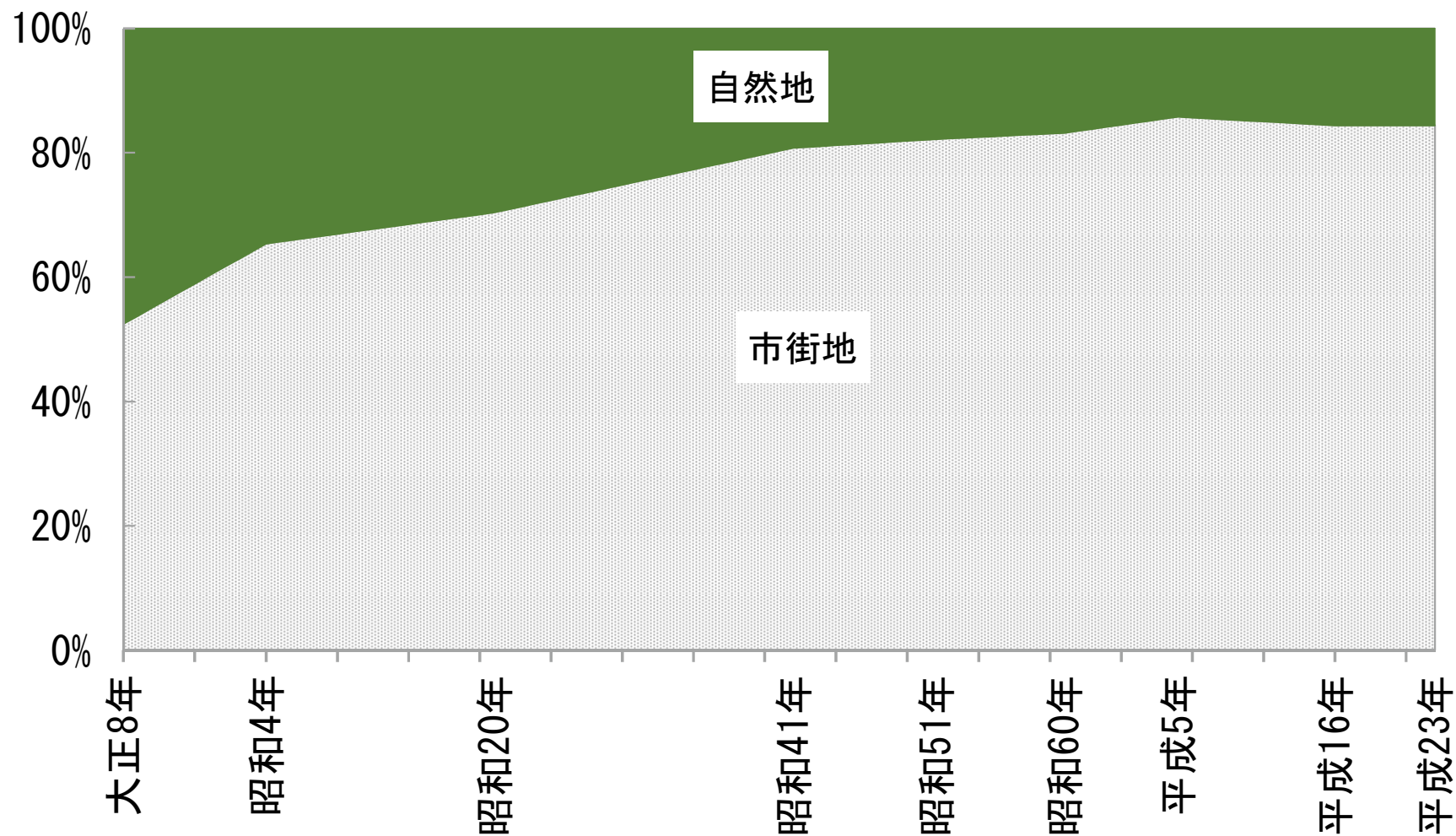


古川(浜崎橋上流付近)



1. 流域及び河川の概要 —土地利用状況の変遷—

渋谷川・古川流域は東京の都心部に位置しているため、比較的早い時期から市街化が進展しており、大正時代では市街地率は流域の50%程度であった。その後、昭和40年にかけてさらに市街化が進み、流域の約80%まで市街化されている。現在では、流域の約83%が市街化されている。



流域の市街地面積率の経年変化

1. 流域及び河川の概要 —歴史と由来—

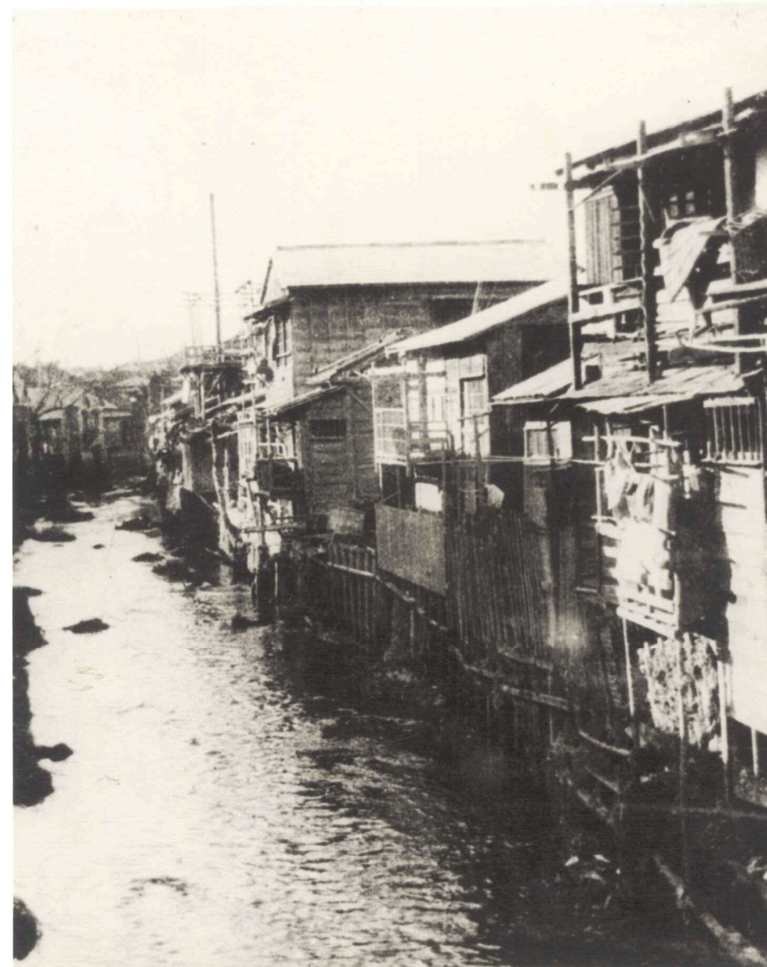
渋谷川・古川は、かつて葛飾北斎が「富嶽三十六景」で「隠田水車」を描き、安藤広重が「名所江戸百景」で「広尾ふる川」を描くなど、清らかな流れと明媚な自然を呈する川であった。また、農家の生活用水や農業用水として使われるなど、古くから人々と深いかかわりを持ってきた。唱歌「春の小川」(大正元年)は、渋谷川の支流で現在は暗渠となっている河骨川をうたったものといわれている。



富嶽三十六景 隠田の水車 葛飾北斎(1830年代)



河骨川周辺の風景(明治30年代)



渋谷駅より南側(大正10年頃)

1. 流域及び河川の概要

渋谷川・古川の概要

土地利用状況の変遷

歴史と由来

2. 河川整備の現状と課題

洪水による災害発生状況

河川の整備状況

適正な利用及び流水の正常な機能の維持

河川環境の整備と保全に関する事項

3. 河川整備計画の目標及び整備の実施に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減

変更

4. 河川整備の実施に関する事項

河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される

河川管理施設の機能の概要

変更

5. パブリックコメントの結果

2. 河川整備の現状と課題 —洪水による災害発生状況—

＜渋谷川・古川の主な水害＞

年月日	原因	浸水面積	被害棟数		雨量観測所	日雨量又は総雨量	時間最大雨量
			床下	床上			
昭和33年9月	狩野川台風	(21, 103ha)	(464, 030)		東京	444mm	76mm
昭和53年4月6日	集中豪雨	0.3ha	15	0	港南	46mm	26mm
昭和54年3月24日	集中豪雨	0.2ha	10	0	港南	56mm	19mm
昭和57年11月30日	集中豪雨	12.0ha	371	6	新宿	82mm	50mm
昭和62年7月25日	集中豪雨	1.9ha	70	5	新宿	64mm	60mm
平成5年8月27日	台風11号	2.5ha	11	0	高浜	201mm	47mm
平成9年8月23日	集中豪雨	0.2ha	1	10	渋谷	65mm	52mm
平成11年8月29日	集中豪雨	15.6ha	334	293	高浜	125mm	115mm
平成12年7月3日	集中豪雨	1.1ha	35	10	高浜	44mm	43mm
平成12年7月4日	集中豪雨	1.9ha	161	60	中央	88mm	84mm
平成16年10月9日	台風22号	0.6ha	20	15	中央	222mm	70mm
平成16年10月20日	台風23号	0.6ha	32	14	中央	201mm	31mm
平成17年5月23日	集中豪雨	0.5ha	12	1	中央	52mm	52mm
平成17年9月11日	集中豪雨	0.4ha	16	15	上目黒	86mm	58mm
平成22年9月8日	台風9号	0.2ha	3	17	三田	106mm	74mm
平成25年10月15日	台風26号	0.1ha	0	11	三田	213mm	38mm
平成26年6月29日	集中豪雨	1.6ha	25	73	駒場	67mm	50mm



平成11年8月29日集中豪雨
(古川橋上流・明治通り)

平常時



増水時



平成16年10月20日台風23号
(古川橋)

※代表的な水害である狩野川台風（昭和33年）及び昭和49～平成26年（被害棟数10棟以上）の被害を掲載

2. 河川整備の現状と課題 —河川の整備状況—

【河道の整備状況】

渋谷川は、昭和61年～平成14年にコンクリート三面張りによる護岸整備は概成している。

古川は、赤羽橋～天現寺橋間においては、護岸整備を進めており、高潮事業区間である河口～赤羽橋間においては、一部区間を除き防潮堤が完成している。



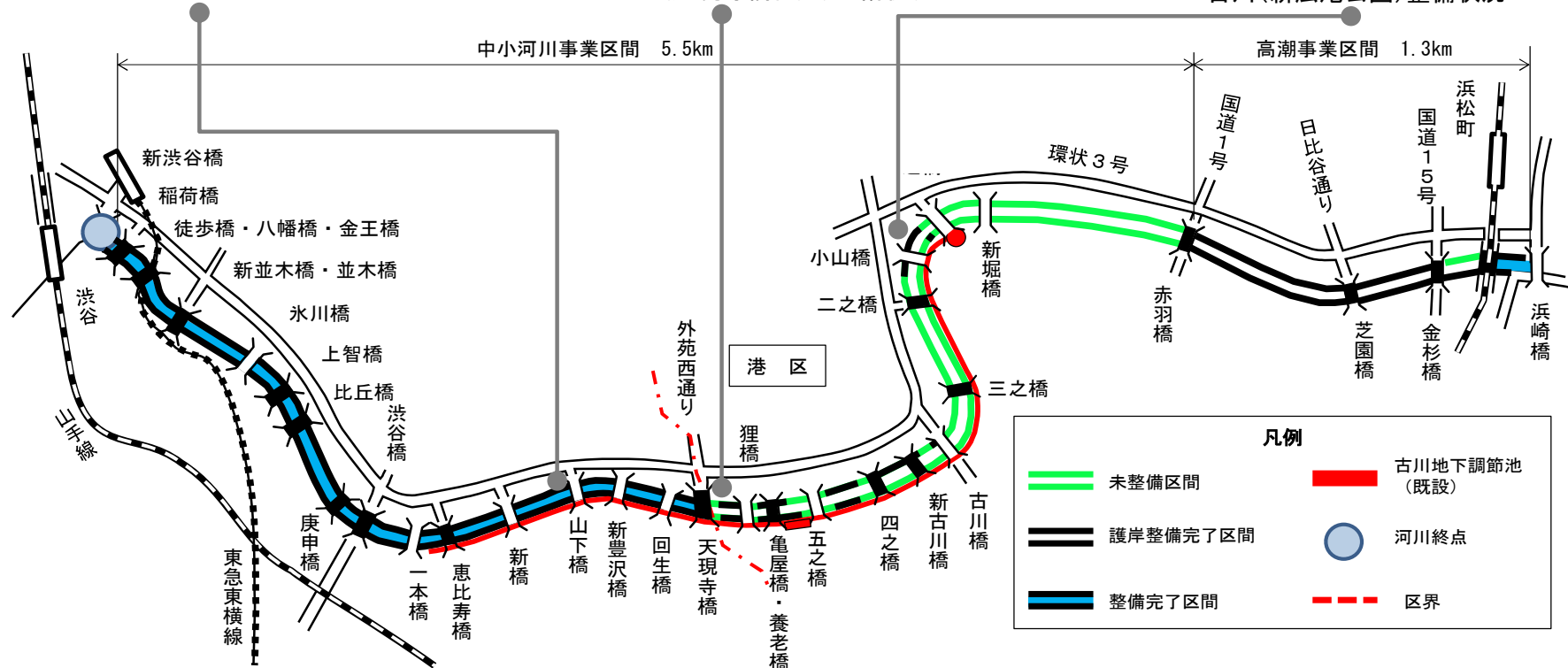
渋谷川(山下橋付近)整備状況



古川(天現寺橋付近)整備状況



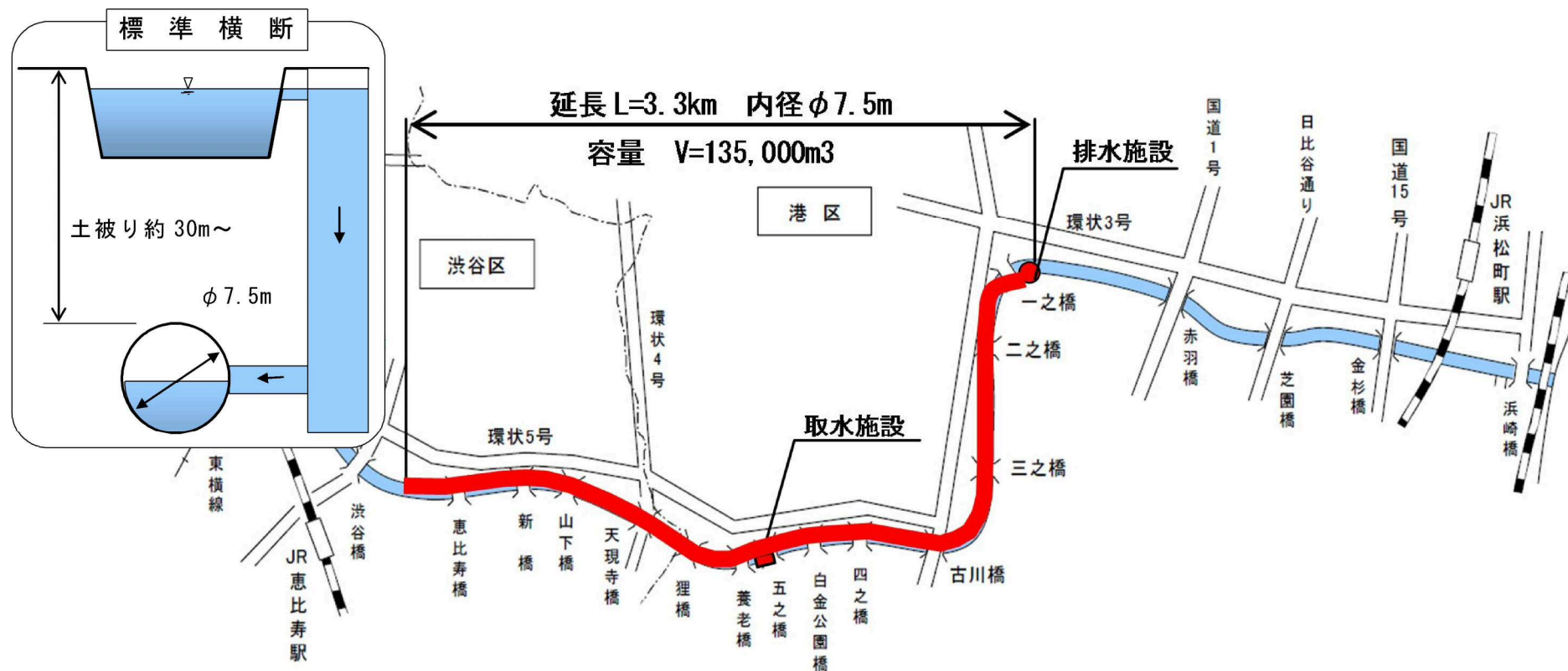
古川(新広尾公園)整備状況



2. 河川整備の現状と課題 —河川の整備状況—

【調節池の整備状況】

古川では、首都高橋脚やマンションの隣接などにより、河道拡幅による整備が困難であることから、早期に治水安全度向上を図るため、平成21年度から古川地下調節池の整備に着手し平成29年度に完成している。



	内容・規模	備考
調節池名称	古川地下調節池	
洪水調節量	44m ³ /sec	取水箇所：港区白金五丁目
調節池容量	135,000m ³	排水箇所：港区三田一丁目
トンネル	内径7.5m	外径8.0m、土被り約30m~40m
延長	約3,300m	港区三田一丁目~渋谷区恵比寿一丁目

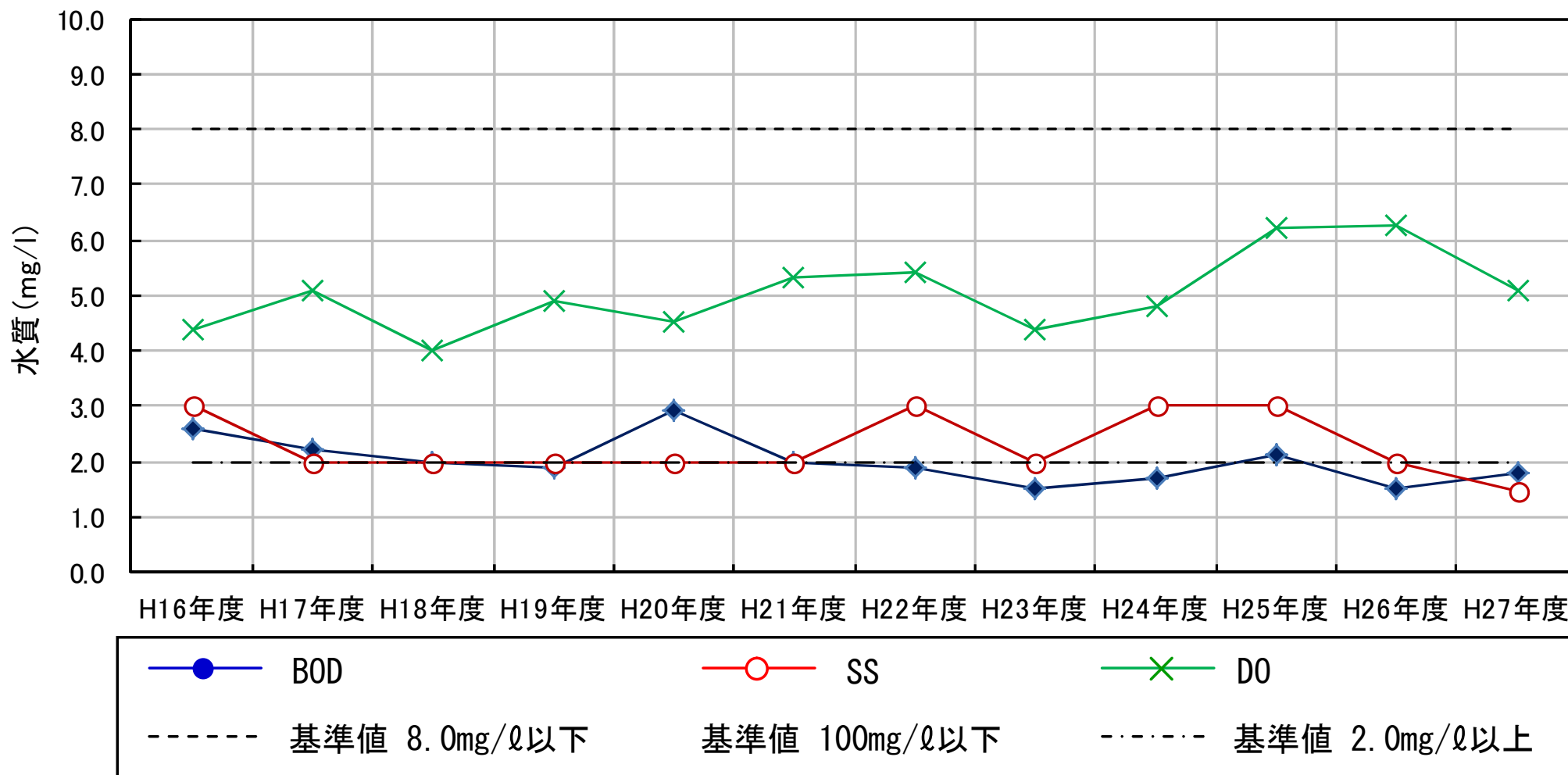
2. 河川整備の現状と課題

－河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全に関する事項－

水利権：取水なし

漁業権：設定なし

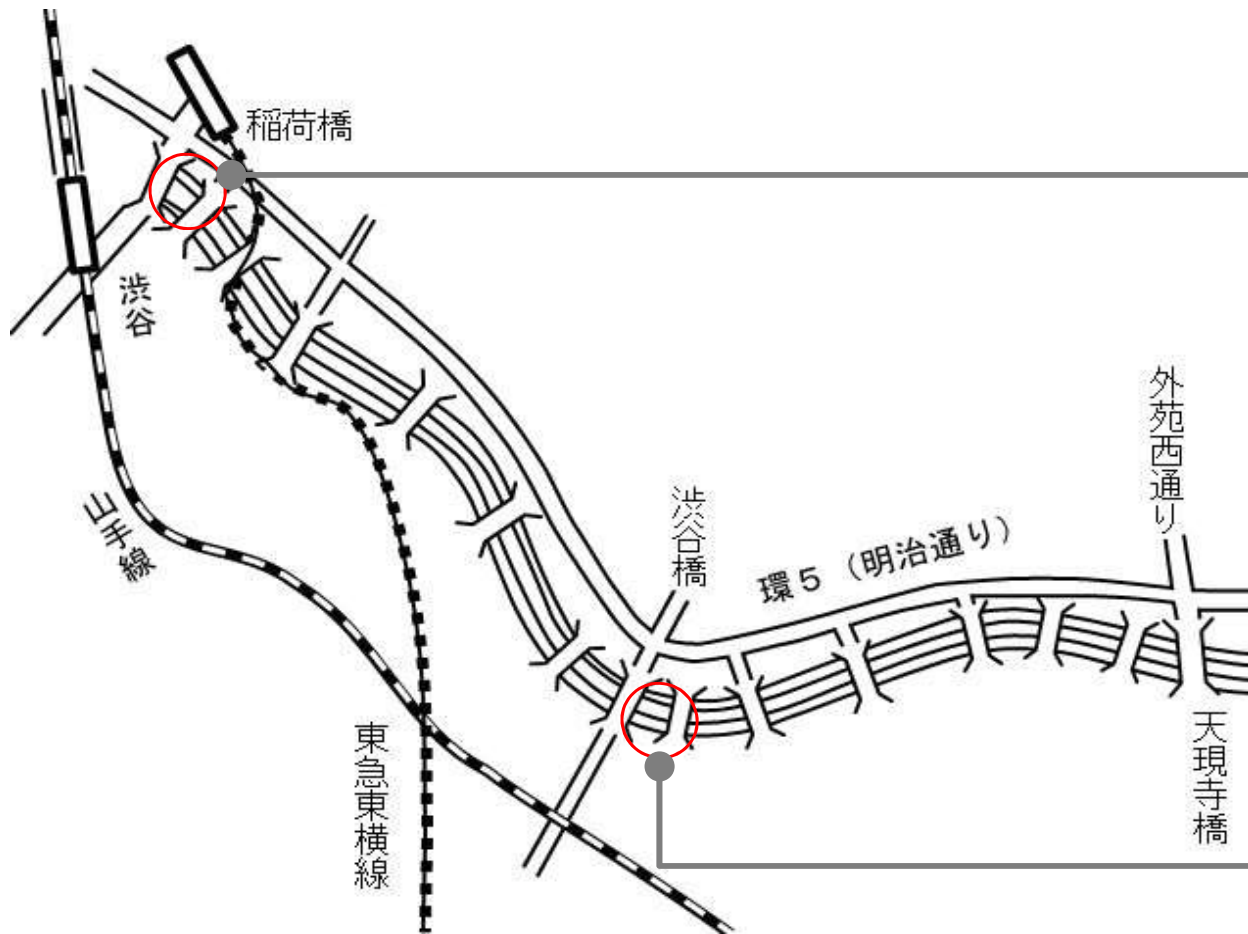
水質：公共用水域水質測定として、定期的水質測定がなされており、平成9年5月よりD類型に指定され、近年ではBOD、SS、DOはD類型環境基準値を達成している。



金杉橋における水質測定結果

2. 河川整備の現状と課題 —河川環境の整備と保全にする事項—

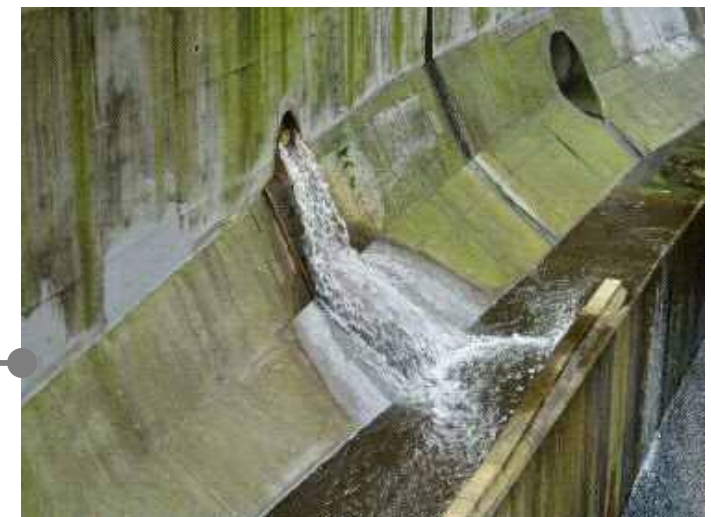
清流復活事業として、下水道局、環境局、地元区役所など関係機関と連携の上、平成7年度より下水道の高度処理水を導水している。恵比寿東公園においては、平成15年度より地下鉄管理者（東京メトロ日比谷線）における、止水を施しても漏出する地下水を導水している。



環境用水の導水・地下水の状況



稲荷橋下流付近の状況(清流復活事業)



恵比寿東公園の状況(東京メトロ日比谷線)

1. 流域及び河川の概要

渋谷川・古川の概要

土地利用状況の変遷

歴史と由来

2. 河川整備の現状と課題

洪水による災害発生状況

河川の整備状況

適正な利用及び流水の正常な機能の維持

河川環境の整備と保全に関する事項

3. 河川整備計画の目標及び整備の実施に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減

変更

4. 河川整備の実施に関する事項

河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される

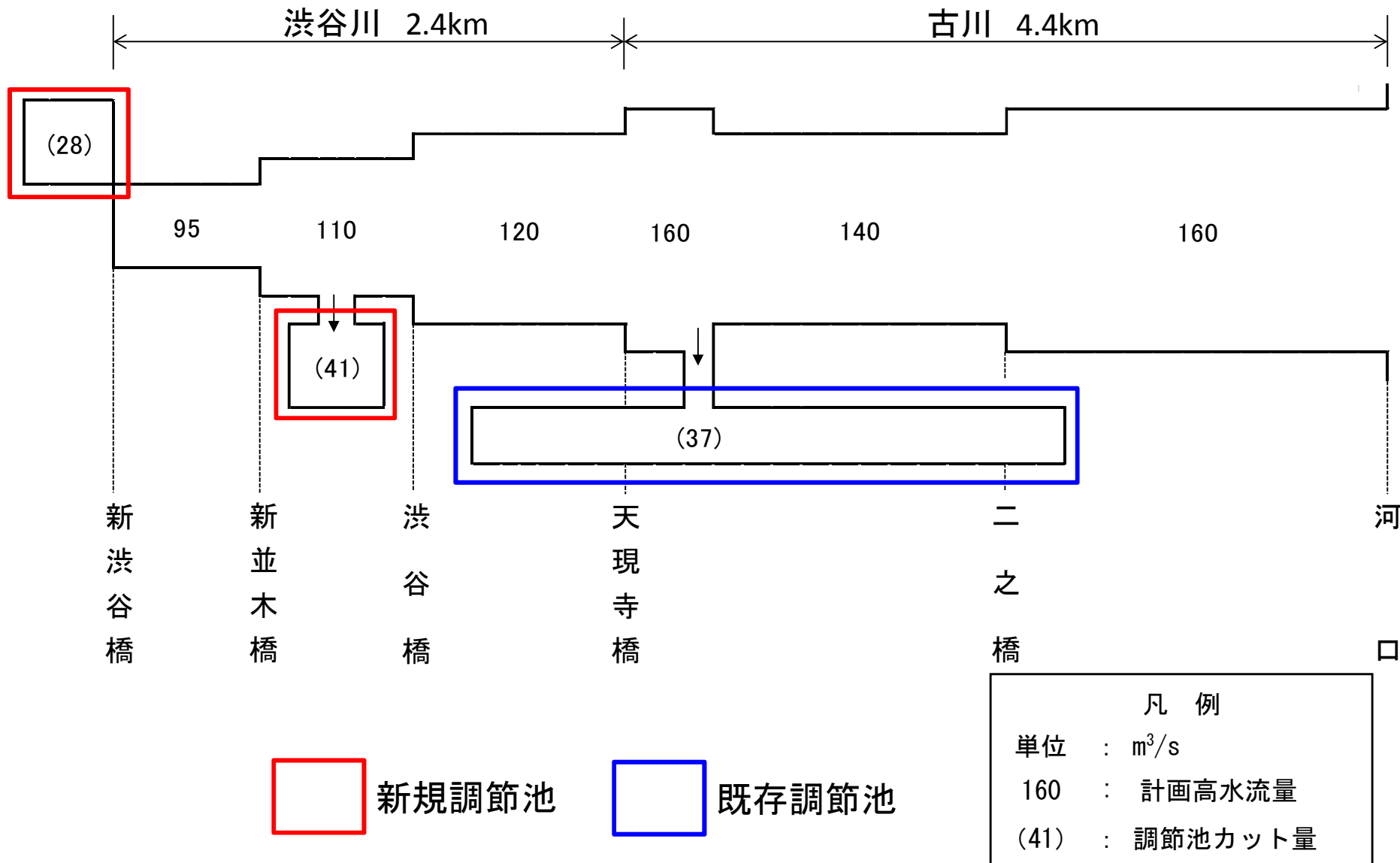
河川管理施設の機能の概要

変更

5. パブリックコメントの結果

3. 河川整備の実施 —洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減—

平成24年11月に示した「中小河川における都の整備方針～今後の治水対策～」に基づき、**1時間あたり50mm規模の降雨**による計画高水流量に対応できる河道に加え、洪水をためる調節施設を整備する。さらに河川への流出を抑制する流域対策を含めて、**1時間あたり75mm規模の降雨**に対応する。



1. 流域及び河川の概要

渋谷川・古川の概要

土地利用状況の変遷

歴史と由来

2. 河川整備の現状と課題

洪水による災害発生状況

河川の整備状況

適正な利用及び流水の正常な機能の維持

河川環境の整備と保全に関する事項

3. 河川整備計画の目標及び整備の実施に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減

変更

4. 河川整備の実施に関する事項

河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される

河川管理施設の機能の概要

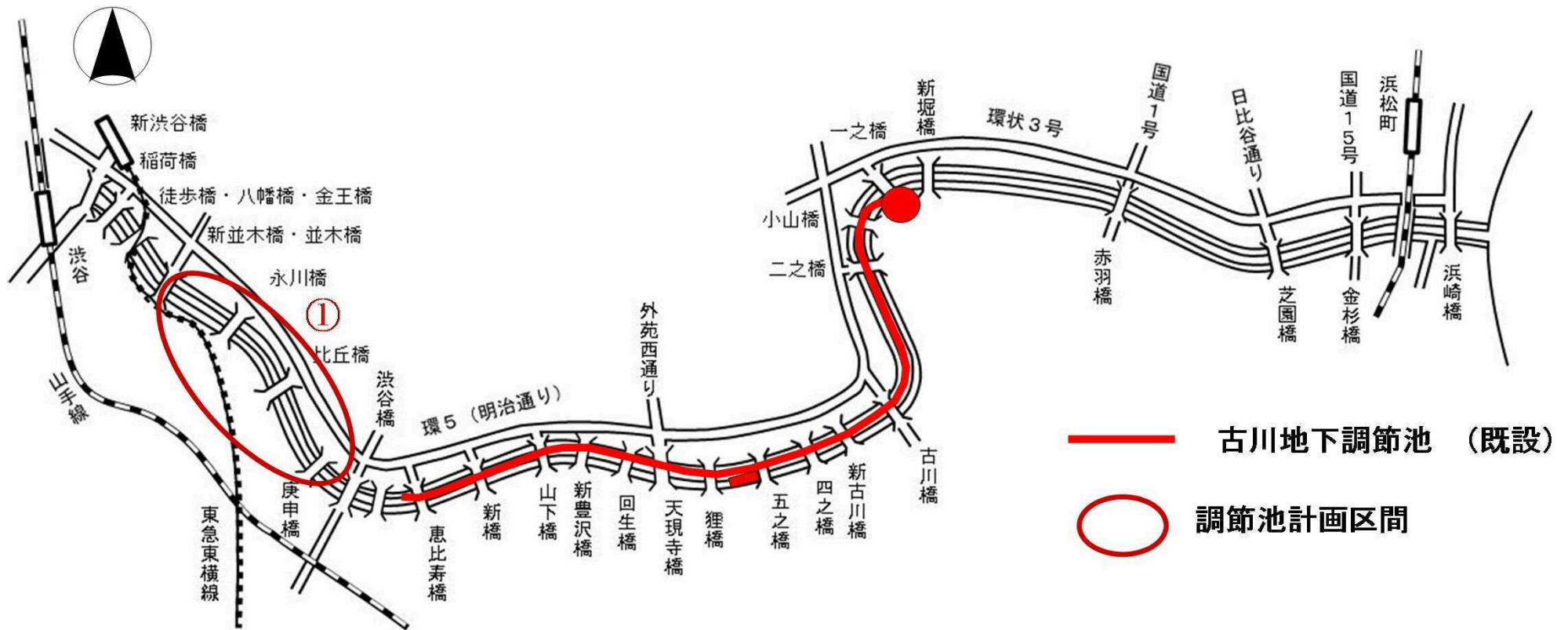
変更

5. パブリックコメントの結果

4. 河川整備の実施に関する事項

河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

洪水による災害の発生の防止又は軽減の目標として、1時間あたり75mm規模の降雨により生じる降雨に対処するため、河道を補完する調節池を整備する。



番号	位置	調節池容量 (予定)
①	新並木橋～渋谷橋付近	約 220,000m ³

今後、施設数や設置場所等の施設計画を検討、調整していく。
上記以外にも最上流域に調節池等を整備するなどの対応を図る。

1. 流域及び河川の概要

渋谷川・古川の概要

土地利用状況の変遷

歴史と由来

2. 河川整備の現状と課題

洪水による災害発生状況

河川の整備状況

適正な利用及び流水の正常な機能の維持

河川環境の整備と保全に関する事項

3. 河川整備計画の目標及び整備の実施に関する事項

洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減

変更

4. 河川整備の実施に関する事項

河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される

河川管理施設の機能の概要

変更

5. パブリックコメントの結果

4. パブリックコメントの実施結果

●意見聴取の実施概要

実施期間：平成30年7月1日～31日

実施方法：変更原案の公表、リーフレットの配布

実施場所：都庁河川部、都建設事務所（3箇所）、流域区（5区）、都HP
※都・区広報への掲載、HP・Twitterによる情報提供

●提出意見（総括）

河川整備計画全体に関する事	2件
環境保全に関する事	10件
河川利用に関する事	5件
洪水対策に関する事	4件
水質に関する事	5件
その他	6件

合計 32件

4. パブリックコメントの結果

寄せられた主な意見と回答（抜粋）

主な意見	回答（案）
◆河川整備全体に関すること	
<p>平成30年7月に発生した西日本豪雨のような過去例を見ない記録的な大雨は東京でも想定され、仮に東京で発生した場合の被害や社会的な影響を鑑みると本原案にあるような治水対策は急務である。</p> <p>今回の変更の背景として原案に記載されている「1時間あたり100ミリの豪雨に対処するために目標整備水準を区部で時間最大75ミリの降雨に引き上げる」という大方針について賛同します。</p>	<p>今回の変更は、「東京都豪雨対策基本方針（改定）」（平成26年6月）において、甚大な浸水被害が発生している地域（対策強化流域）の治水水準を時間75ミリとしたことに基づいたものです。</p> <p>東京都の長期計画においては、時間100ミリ降雨を最終的な目標治水水準としておりますが、整備には長期間を要するため、整備水準を段階的に引き上げています。</p>
◆環境保全に関すること	
<p>渋谷川は水がない川なので川沿いの道の緑化など緑を増やす整備をしてほしい。</p>	<p>第4章第1節（2）河川環境の整備と保全に関する事項のとおり、護岸の緑化などにより緑を増やしていきたいと考えております。</p>
<p>渋谷駅付近から並木橋の間は、渋谷駅からつながるまちなみ景観の向上を図るため、沿川のビルの再整備を指導し、川沿いの遊歩道を整備して欲しい。特に明治通り側の建物は、川に背を向け、川沿いに道路もほとんどない。つまり、川とまちが分離しているため、ごみ等の投棄を生じさせていた。川沿を歩ける緑化した自然が感じられる魅力的な遊歩道のある川にして欲しい。</p>	<p>渋谷駅周辺地域のまちづくりにあわせて、地元区や関係機関と連携し、広場や通路の整備を行っています。頂いた貴重なご意見を参考にしつつ、今後も地元区や関係機関との連携、調整を図っていきたいと考えております。</p>
<p>防災上の安全な場所や憩いの場所にもなるため渋谷駅付近に渋谷川と一体となった公園、広場を整備して欲しい。</p>	

4. パブリックコメントの結果

主な意見	回答（案）
◆河川利用について	
<p>渋谷川・古川の護岸整備・良好な景観創出に際して、都心における貴重な河川であることを生かすため、良好な水質を保つと共に親水性の高い（川の水に触れながら川沿いを歩ける）連続的な通路（遊歩道）の整備を望む。</p>	<p>渋谷川・古川は洪水時に急激な水位上昇生じる河川であるため、治水や防災上の課題に対応しつつ可能な限り親水性の向上を図っていきたいと考えております。また頂いたご意見は、河川利用に関する貴重なご意見として参考とさせていただきます。</p>
◆洪水対策について	
<p>調節池の整備については、既設古川地下調節地を拡張した方が効率が良い。</p>	<p>調節池の整備方法については、今後設置数や設置場所等の施設計画を検討、調整していきます。</p>
<p>恵比寿橋付近が危険だと感じるため、新しい調節池の整備を早期に行って欲しい。</p>	<p>施設計画の検討と調整を進め、可能な限り早期に事業着手していきたいと考えております。</p>
◆水質に関すること	
<p>渋谷川の上流から水を流しているようだがどのような水を流しているのか。</p>	<p>雨天時は上流側の下水道施設から堰を越流した水が放流されており、平常時は下水道の高度処理水や地下鉄等に漏出する地下水を導水しております。</p>
<p>第5章 第2節 地域や関係機関との連携に関する事項に下水道との連携が記載されているが、河川に下水の放流は容認できないので別の方法による連携を検討すべきである。</p>	<p>区内の下水道は、汚水と雨水とを一つの下水道管で集める合流式が大半を占めております。汚水と雨水を分流する整備には、莫大な時間と費用が必要とされます。頂いたご意見は、水質改善に関する貴重なご意見として、参考とさせていただきます。</p>